

経営比較分析表

宮城県 日向市

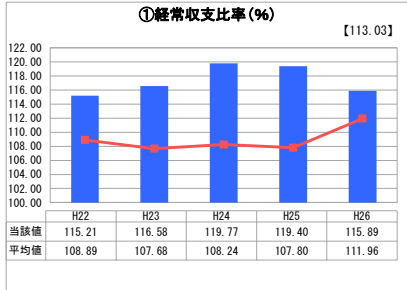
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A4
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	55.38	92.17	2,286

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
63,347	336.93	188.01
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
58,082	51.66	1,124.31

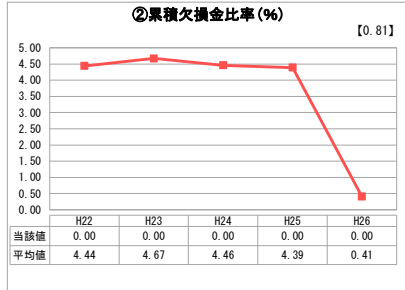
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

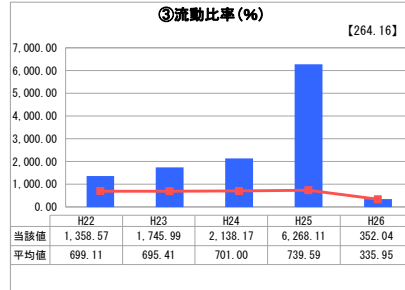
1. 経営の健全性・効率性



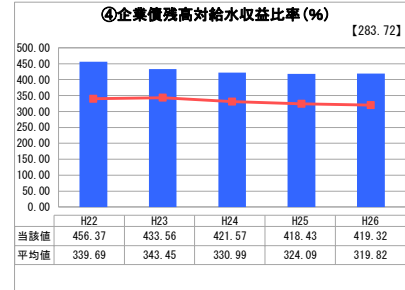
「経常損益」



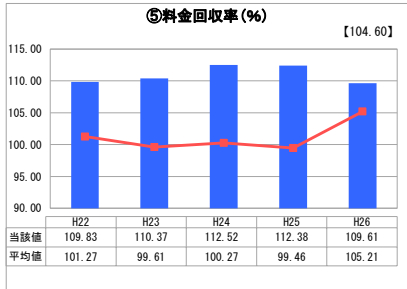
「累積欠損」



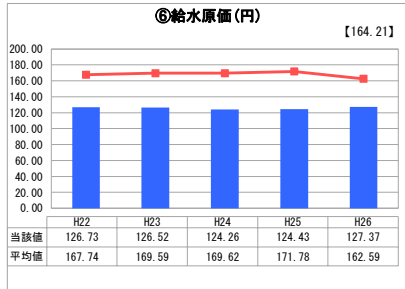
「支払能力」



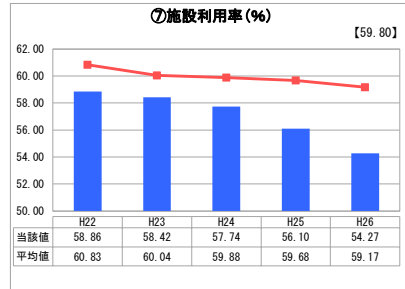
「債務残高」



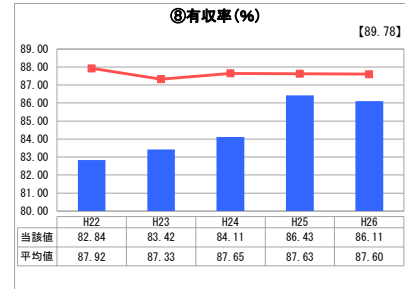
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

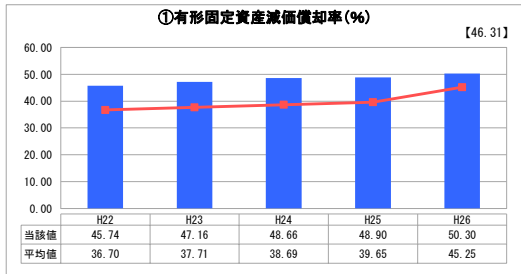


「施設の効率性」

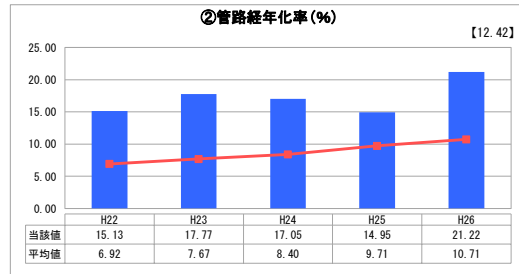


「供給した配水量の効率性」

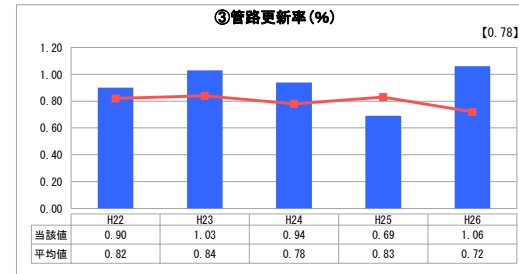
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「経常収支比率」は、H24年度まで上昇していましたが、その後、徐々に低下してきています。これは維持費が増加する一方、財源となる給水収益が減少傾向にあることに起因しています。しかしながら、類似団体と比較して高い比率を維持していることから、現在のところ経営は安定していると言えます。

「流動比率」は、H25年度に大きく増加していますが、これは前年度繰越現金が増加したことによるものです。また、H26年度は大きく減少していますが、会計基準見直しによるものであり、支払能力に問題はありません。

「企業債残高対給水収益比率」については、類似団体と比較して高い状況にあります。これは主に配水管整備事業の財源とした企業債発行が影響したものであります。現在、償還は進んでいますが、今後も、老朽化の著しい施設等の更新及び耐震化を行うための企業債活用を予定していることから、財源の調整を図ることはもちろんのこと、借入額の抑制に努める必要があります。

「給水原価」は類似団体より低い現状にありますが、将来、供給単価との逆転も想定されることから、安全な水質を保持しながら、さらに経費削減に努める必要があります。

「施設の効率性」については、「施設利用率」が類似団体より低い状況から、給水人口と比較し、施設規模が大きいと言えます。今後も給水人口の増加は見込めないことから、適切な施設利用について見直す必要があります。

「有収率」は、類似団体より低く、今後も漏水対策を進めていく必要があります。

2. 老朽化の状況について

「施設全体の減価償却の状況」については、「有形固定資産減価償却率」のとおり、類似団体より高い状況にありますが、これは、H12年度に浄水場内中央監視室を整備したことによるものであります。「管路経年化率」は、類似団体と比較して高く、法定耐用年数を超過した老朽管を多く保有していることを示しています。

このことを踏まえ、現在、年次的に管路更新工事を進めており、「管路更新率」は類似団体より0.3ポイント上回っています。

しかしながら、厳しい財政状況の中で更新工事を進めていくには限界があり、新たな財源の確保と更新計画の見直しが必要です。

全体総括

近年の人口減少及び節水意識の高揚に加え、大規模事業所の自主努力等より、給水収益はますます減少することが見込まれます。

一方、水道施設の維持管理に係る費用は増加傾向にあることから、さらに経費の削減に努める必要があります。

今後は、経営改善はもちろんのこと、更新計画等を見直し、長期的な経営計画について検討する必要があります。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。